

平成30年度第2回本庄市交通政策協議会 次第

日 時：平成31年1月25日（金）

午後1時30分～

(午後3時30分終了予定)

場 所：旧本庄商業銀行煉瓦倉庫

2階 多目的ホール

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 挨 捶

4. 協議事項等

(1) 平成30年度生活交通確保維持改善計画の事業評価について

協議事項

5. 報 告 事 項

(1) 本庄市総合交通計画評価検証等業務委託について

報告事項

①各アンケート調査について

②本庄市公共交通ガイドの作成について

6. 議 事

(1) デマンド交通に関する共通停留所の設置（案）について

資料1

(2) デマンド交通に関する定期便の実証実験（案）について

資料2

7. その他の事項

8. 閉 会

平成30年度本庄市交通政策協議会委員名簿

第3条関係	選出区分	職 名	氏 名
1号委員	本庄市長又はその指名する者	本庄市副市長	今井 和也
2号委員	一般乗合旅客自動車運送事業者	朝日自動車(株) 常務取締役	栗原 夏樹
		国際十王交通(株) 伊勢崎営業所 所長	佐藤 政明
	一般乗合旅客自動車運送事業者が組織する団体	一般社団法人埼玉県バス協会 専務理事	鶴岡 洋
3号委員	一般貸切旅客自動車運送事業者	本庄観光(株) 代表取締役	山田 三二
		武藏観光(株) 総務部長	家内 知宣
4号委員	一般乗用旅客自動車運送事業者が組織する団体	本庄地区タクシー協議会 会長	神宮 つぐよ
		一般社団法人埼玉県乗用自動車協会 専務理事	高原 昭
5号委員	一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体の代表者	朝日自動車労働組合 執行委員長	小川 幸一
6号委員	住民又は利用者の代表	本庄市自治会連合会 理事	飯塚 庸雄
		本庄市老人クラブ連合会 会長	須藤 成光
		本庄商工会議所 専務理事代行 事務局長	田中 一成
		児玉商工会 会長	江原 貞治
		本庄市身体障害者福祉会 会長	種村 朋文
7号委員	本庄警察署長又はその指名する者	本庄警察署交通課 課長	菊地 祥一
8号委員	児玉警察署長又はその指名する者	児玉警察署交通課 課長	田中 浩一
9号委員	国又は県の交通政策行政の経験及び知識を有する者	埼玉県企画財政部交通政策課 主幹	柳 政男
10号委員	関東運輸局埼玉運輸支局長 又はその指名する者	国土交通省関東運輸局埼玉運輸支局 首席運輸企画専門官	岡安 和幸
11号委員	国又は県の都市計画行政の経験及び知識を有する者	国土交通省関東地方整備局建設部 都市調整官	菊地 英一
12号委員	道路管理者(国道)	国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所 所長	大儀 健一
	道路管理者(県道)	埼玉県本庄県土整備事務所 道路部 部長	小沼 進
13号委員	学識経験を有する者その他協議会が必要と認める者	早稲田大学 名誉教授	浅野 光行
		本庄市議会 議員	穀田 平一郎

地域公共交通確保改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

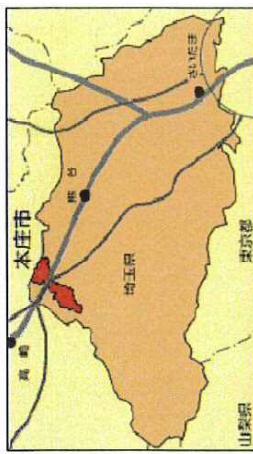
平成31年1月 25日

協議会名：	本庄市交通政策協議会		
評価対象事業名：	地域内フイーダー系統確保維持補助事業		
①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のニーズを把握するため、利用者アンケートを実施した。 ○PR及び地域のニーズを把握するため、デマンド交通の利用方法等の説明会を開催した。 	A 計画には適切に実施された事業。
	本庄南地域デマンド	<ul style="list-style-type: none"> ○新規利用者の獲得のため、広報紙上にPRを兼ねた懸賞クイズを掲載した。 ○市の観光案内やイベント情報をSNSで発信する際に、景石りの停留所を明記し、利用につなげた。 	A 計画には適切に実施された事業。
	見玉市街地デマンド		
	児玉山間地域デマンド		
	本庄シャトル便	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のニーズを把握するため、利用者アンケートを実施した。 ○広報紙に利用案内を掲載し、利用促進を図った。 	A 計画には適切に実施された事業。
	本庄観光株式会社		

⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
<p>B 目標利用者数:15,000人 H29年度利用者数:12,714人 利用率満足度 満足46.4% 普通44.9% 不満5.1%</p> <p>B 目標に対する実利用者数の割合は84.7%で、利用者数は前年度比2.0%減となった。しかし、デマンド調査による満足度対象としたアンケート調査による満足度としては、満足46.4%、普通4.9%となつていて、反面、不満足の割合が5.1%と少なく、車社会の中での移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の移動手段としてニーズを満たしている。</p> <p>B 目標に対する実利用者数の割合は84.7%で、利用者数は前年度比2.0%減となりた。しかし、デマンド調査による満足度としては、満足46.4%、普通4.9%となつていて、反面、不満足の割合が5.1%と少なく、車社会の中での移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の移動手段としてニーズを満たしている。</p> <p>B 目標利用者数:11,503人 H29年度利用者数:11,503人 利用率満足度 満足61% 普通34% 不満3%</p> <p>B 目標に対する実利用者数の割合は100.02%で、前年度比5.1%増となり、目標値を超える利用者数となつた。交通結節点(本庄駅、本庄單福田駅)を結ぶ交通手段として定着が進むと共に、人口増加が進む区段において、市内移動を快適に行えるネットワークの形成に寄与しており、アンケート調査による不満を感じている利用者の割合は3%と非常に少なかった。</p>	<p>運転免許証返納者による新規利用者の増加を予測していたが、人口減少(自然減少)による利用者減少が新規利用者の増加を上回っていると推測されるため、これまで以上に運転免許証返納者等新規利用者の獲得の必要がある。</p> <p>運行開始から5年が経過し、これまでに約方法の変更等小さな改善は重ねてきただが、特定の利用者の獲得等の課題があることから、市民意識調査等を行い、運行計画の評価・検証を行っている。</p> <p>未利用者に試乗券を配布し、実際に試乗してもらうことで利便性の高さを感じてもらうとともに、新規利用者がなかなか利用に馴染み切れない現状も調査・検査結果から運行方法等の見直しも検討していく。</p> <p>目標を上回る利用者数は確保できたが、利用者が増加した分、運行本数等の問題も出てくることが今後予想される。</p> <p>実情に合った地域交通網を形成していくという観点から、シャトル便を含めた各交通手段の分担する役割を整理していく必要があるため、運行計画の評価・検証を開始しており、必要に応じて運行時間や経路等の見直しを検討していく。</p>

平成30年度 本庄市交通政策協議会 (地域内フイーダー系統確保維持補助事業)

地域の公共交通の現況



一部山村指定

現在、本市の主要拠点間の移動手段は、本庄地域と児玉地域(平成18年に本庄市と児玉町との合併により現本庄市となる)の間を結ぶ路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口の減少、マイカーの利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持継続が困難な状況が生じている。また、従来の公共交通だけでは力不足しきれない、いわゆる交通不便地域が点在している。

事業の目的・必要性

交通不便地域の解消、また、高齢者等の交通弱者の移動手段確保を目的とし、市内の公共交通ネットワークを充実させることが喫緊の課題である。市内公共交通ネットワークを充実させるためには、基軸となる路線バスに接続するフイーダー系統の運行が必要である。フイーダー系統の運行により、公共交通を乗り継いで市内を快適に移動することが可能になる。

事業の概要

市内の本庄地域と児玉地域を結ぶ路線バスを「地域間幹線系統」として運行し、両地域において地域間幹線系統に接続する形で区域運行のデマンド型交通の運行をしている。また、交通結節点機能の充実を目的とし、本庄駅(JR高崎線)と本庄早稲田駅(上越新幹線)の両駅間を結ぶシャトル便(乗合バス型)を併せて運行している。

【デマンド交通:「はにぽん号」「もといすみ号】】

事業者名:朝日自動車株式会社
運行区域:①本庄北地域、②本庄南地域、③児玉市街地、④児玉山間地域
運行日:日曜、祝日、年末年始運休
運行時間帯:8時~17時(④児玉山間地域のみ、8時前、18時以降に通学用の運行)
運行車両:ワゴン車(①④地域)、セダン車(②③地域)
運賃:300円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

【シャトル便:「はにぽんシャトル】】

事業者名:本庄観光株式会社
運行系統:本庄駅～本庄早稲田駅 3.0km
運行日:365日
運行時間帯:9時~19時
運行本数:13~5往復/日
運行車両:ワゴン車
運賃:200円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

面 積	89.69km ²
人口 (H31.1.1時点)	78,297人
15歳未満	9,241人
65歳以上	21,716人
高 齢 化 率	27.7%
世 带 数	34,140世帯

協議会開催状況

○協議会の開催状況

- ・平成27年度第1回(平成27年5月26日)
H28年度計画、改善点等の協議
- ・平成27年度第2回(平成28年1月8日)
H27年度計画の事業評価について協議
- ・平成28年度第1回(平成28年6月14日)
H29年度計画、課題・改善点等の協議
- ・平成29年度第1回(平成29年5月24日)
H30年度計画、課題・改善点等の協議
- ・平成30年度第1回(平成30年5月23日)
H31年度計画、評価・検証等の協議
- ・平成31年度第2回(平成31年1月25日予定)
H30年度事業評価等の協議

前回の事業評価結果の反映状況

【デマンド交通】

- 利用者のニーズを把握するため、利用者アンケートを実施した。
- PR及び地域のニーズを把握するため、デマンド交通の利用方法等の説明会を開催した。
- 新規利用者の獲得のため、広報紙上にPRを乗せた懸賞クイズを用意している。
- 市の観光案内やイベント情報をSNSで発信する際に、最寄りの停留所を明記し、利用につなげた。

【シャトル便】

- 利用者のニーズを把握するため、利用者アンケートを実施した。
- 広報紙に利用案内を掲載し、利用促進を図った。

定量的な目標・効果

【目標】

- 平成30年度(H29.10.1～H30.9.30)利用者数　・デマンド交通：15,000人　・シャトル便：11,500人
- ・地域間幹線系統(朝日自動車(路線バス))：前年度対比で増加

○利用者満足度

- ・デマンド交通　満足：85%以上　不満：足現状より減少
- ・シャトル便　満足：現状維持　不満：足現状より減少

【効果】

- ・デマンド交通の運行により、交通不便地域の解消が図れ、高齢者等の交通弱者の移動手段が確保される。
- ・既存路線バス、デマンド交通及びシャトル便の相互の乗り継ぎにより、公共交通での市内移動が快適に行えるネットワークが形成される。

目標効果の達成状況

【デマンド交通】

- H30年度利用者数：12,714人　利用者満足度　・満足：46.4%・普通：44.9%・不満：5.1%
- ・目標に対する実利用者数の割合は84.7%で、利用者数は前年度比2.0%減となった。しかし、デマンド交通利用者を対象としたアンケート調査による満足度としては、満足46.4%、普通44.9%となっている反面、不満足の割合が5.1%と少なく、車社会の中で移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の移動手段としてニーズを満たしている。

【シャトル便】

- H30年度利用者数：11,503人　利用者満足度　・満足：61%・普通：34%・不満：3%
- ・目標に対する実利用者数の割合は100.02%で、前年度比5.1%増となり、目標値を超える利用者数となった。交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ交通手段として定着が進むと共に、人口増加が進む区域において、市内移動を快適に行えるネットワークの形成に寄与しており、アンケート調査による不満を感じている利用者の割合は3%と非常に少なかつた。

アピールポイント

路線バス(地域間幹線系統)、デマンド交通及びシャトル便の相互乗り継ぎの促進を図るため、豊富な割引メニューを用意している。

今後の改善点

【デマンド交通】

運転免許証返納者による新規利用者の増加を予測していくにか、人口減少(自然減少)による新規利用者の増加を上回つていると推測されるため、これまで以上に運転免許証返納者等新規利用者の獲得の必要がある。運行開始から5年が経過し、これまで予約方法の変更等小さな改善は重ねてきたが、特定の利用者による硬直化や先に挙げた新規利用者の獲得等の課題があることから、市民意識調査等を行い、運行計画の評価・検証を開始している。未利用者に試乗券を配布し、実際に試乗してもらうことで利便性の高さを感じてもらうとともに、新規利用者がなかなか利用に踏み切れない現状も調査し、調査結果から運行方法等の見直しも検討していく。

【シャトル便】

目標を上回る利用者数は確保できたが、利用者が増加した分、運行本数等の問題も出てくることが今後予想される。実情に合った地域交通網を形成していくという観点から、シャトル便を含めた各交通手段の分担する役割を整理していく必要があるため、運行計画の評価・検証を開始しており、必要に応じて運行時間や経路等の見直しを検討していく。

事業評価の概要（評価制度の説明）

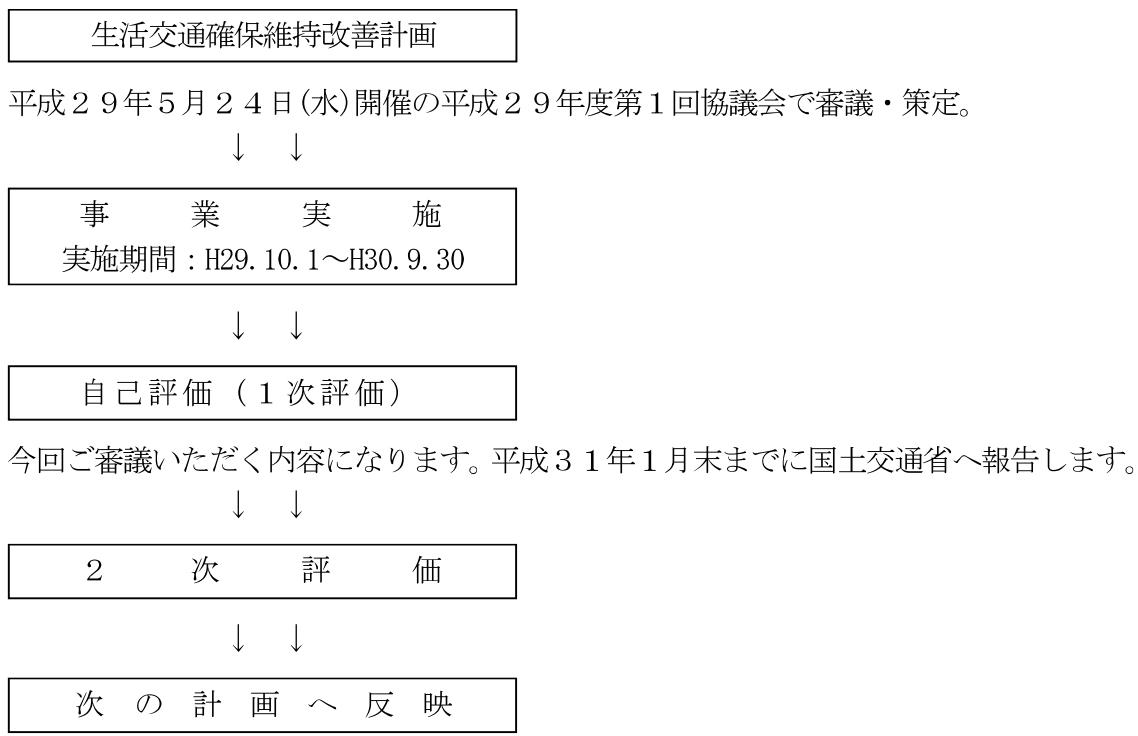
○事業評価の位置づけ

本庄市交通政策協議会が策定する「生活交通確保維持改善計画」（デマンド交通及びシヤトル便の運行計画）は、国の地域公共交通確保維持改善事業の支援を受けて進めているものです。該当する事業については、毎年度、協議会自らによる事業の実施状況の確認及び評価（以下「自己評価」とします。）を行い、自己評価の結果を国に報告することになっています。

また、自己評価（1次評価）は、国の設置する第三者評価委員会の審議を経て2次評価結果として協議会に通知され、評価結果を生活交通確保維持改善計画等に反映することとされています。

○事業評価の流れ

生活交通確保維持改善計画と事業評価との関係は、下記のとおりです。



今回ご審議いただく内容になります。平成31年1月末までに国土交通省へ報告します。

平成31年5月（予定）協議会を開催。評価結果を踏まえ、平成32年度分の生活交通確保維持改善計画を策定。対象期間は平成31年10月1日～平成32年9月30日となります。

資料 1

デマンド交通営業区域 … 本庄市域

デマンド交通運用地域

本庄北地域	地域①、区域b及び区域bに近接する公共施設（「保健センター」、「市民文化会館」）に設置する乗降ポイント間を運行する。
本庄南地域	地域②、区域a及び区域aに近接する公共施設（「 本庄市役所 」、「湯かっこ」）に設置する乗降ポイント間を運行する。
児玉市街地	地域③並びに地域③に近接する「間瀬湖」及び商業施設「ビッグマーケット」に設置する乗降ポイント間を運行する。 ただし、1日1往復に限り、「児玉総合支所」、「湯かっこ」に設置する乗降ポイント間を運行する。
児玉山間地域	県道秩父児玉線の「いろは橋折返し場」に設置する乗降ポイントを起点、「児玉総合支所」に設置する乗降ポイントを終点として同県道を往復することを基本とし、地域④に設置する乗降ポイントと同県道沿いに設置する乗降ポイント、区域cに設置する乗降ポイント及び区域cに近接する公共施設（「セルディ」、「エコーピア」、「 秋平小学校 」）、商業施設、医療施設に設置する乗降ポイント間を運行する。

地域① … JR高崎線以北の地域

地域② … JR高崎線以南の本庄地域

地域③ … 児玉地域のうち児玉町元田、稻沢、河内、太駄下、太駄中、太駄上を除く地域

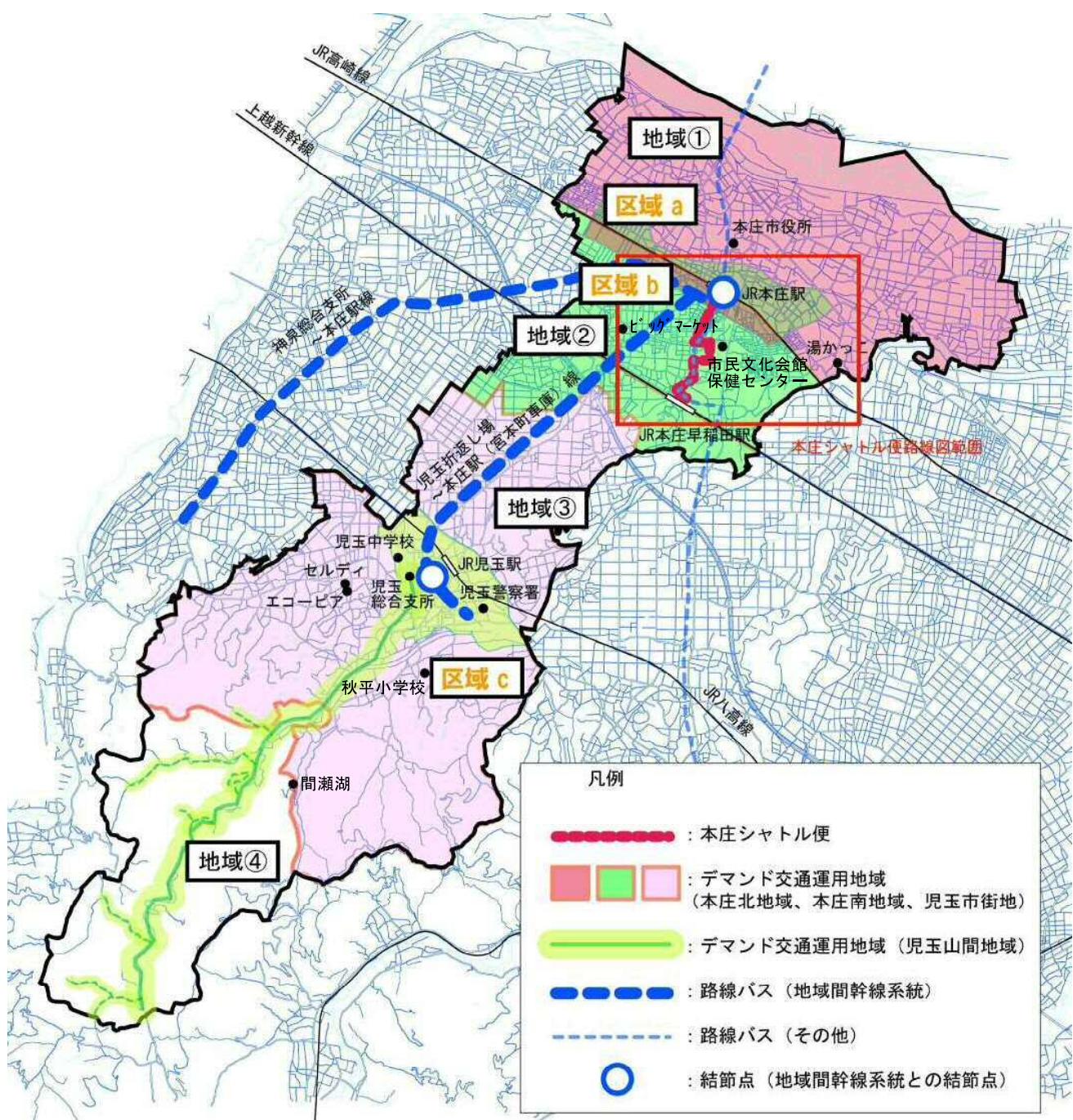
地域④ … 児玉町元田、稻沢、河内、太駄下、太駄中、太駄上

区域a … 南をJR高崎線、北を県道勅使河原本庄線（旧中山道）、西を蛭子塚通り線、東を国道17号と県道藤岡本庄線（南大通り線）で囲まれる地域

区域b … 北をJR高崎線、南を二本松通り線、西を蛭子塚通り線、東を県道藤岡本庄線（南大通り線）で囲まれる地域

区域c … 国道254号以南の児玉町児玉、八幡山、吉田林

表1 添付図面



変更前

表1 添付図面(説明)

デマンド交通営業区域 … 本庄市域

デマンド交通運用地域

本庄北地域	地域①、地域b及び <u>地域bに近接する公共施設</u> (「保健センター」、「市民文化会館」)に設置する乗降ポイント間を運行する。
本庄南地域	地域②、地域a及び <u>地域aに近接する公共施設</u> (「市役所」、「湯かっこ」)に設置する乗降ポイント間を運行する。
児玉市街地	地域③に設置する乗降ポイント間を運行する。 ただし、1日1往復に限り、「児玉総合支所」、「湯かっこ」に設置する乗降ポイント間を運行する。
児玉山間地域	県道秩父児玉線の「いろは橋折返し場」に設置する乗降ポイントを起点、「児玉総合支所」に設置する乗降ポイントを終点として同県道を往復することを基本とし、地域④に設置する乗降ポイントと同県道沿いに設置する乗降ポイント、地域cに設置する乗降ポイント及び <u>地域cに近接する公共施設</u> (「セルディ」、「エコーピア」)、 <u>商業施設</u> 、 <u>医療施設</u> に設置する乗降ポイント間を運行する。

地域① … JR高崎線以北の地域

地域② … JR高崎線以南の本庄地域

地域③ … 児玉地域のうち児玉町元田、稻沢、河内、太駄下、太駄中、太駄上を除く地域

地域④ … 児玉町元田、稻沢、河内、太駄下、太駄中、太駄上

地域a … 南をJR高崎線、北を県道勅使河原本庄線(旧中山道)、西を蛭子塚通り線、東を国道17号と県道藤岡本庄線(南大通り線)で囲まれる地域

地域b … 北をJR高崎線、南を二本松通り線、西を蛭子塚通り線、東を県道藤岡本庄線(南大通り線)で囲まれる地域

地域c … 国道254号以南の児玉町児玉、八幡山、吉田林

表1 添付図面

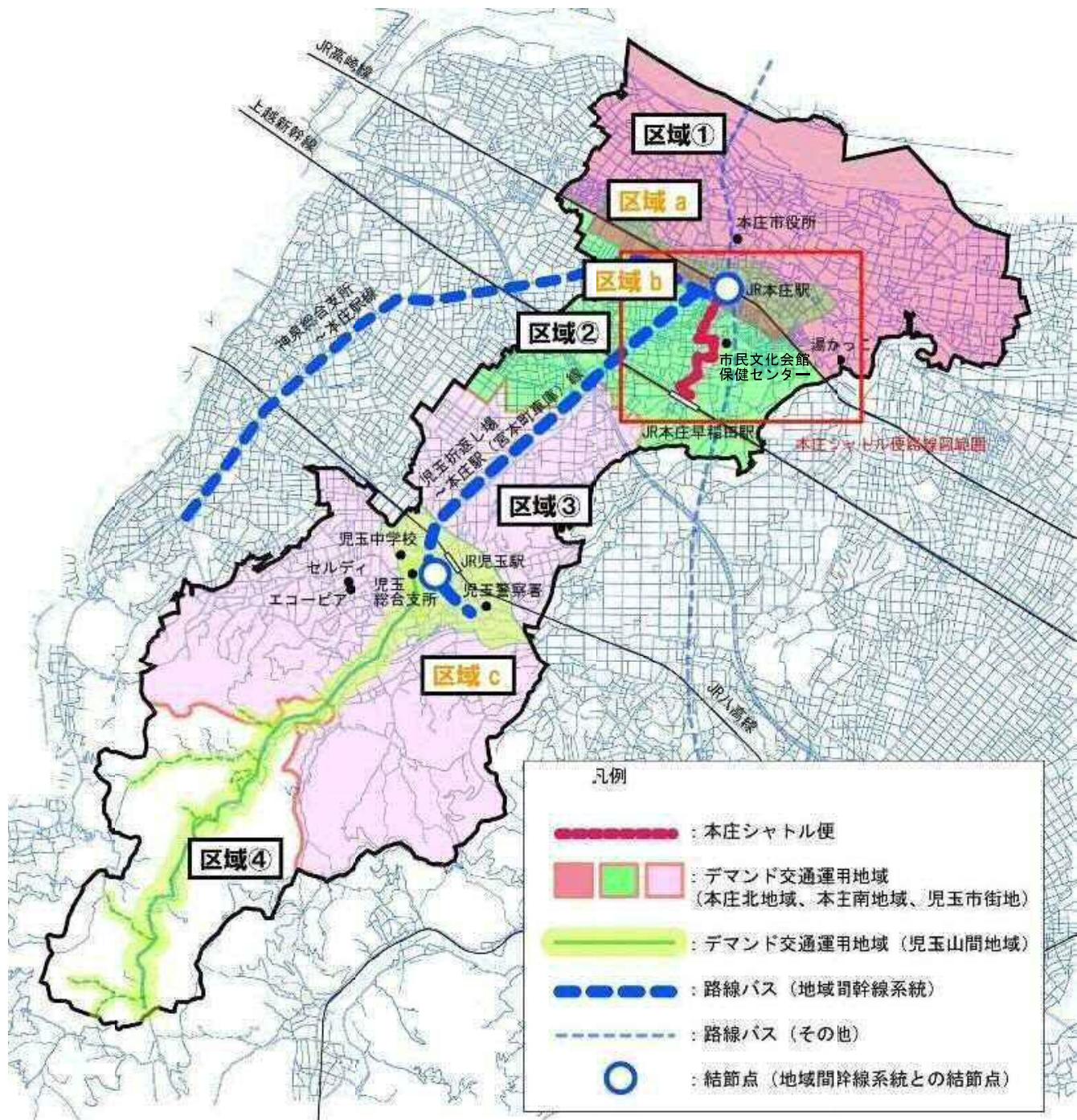
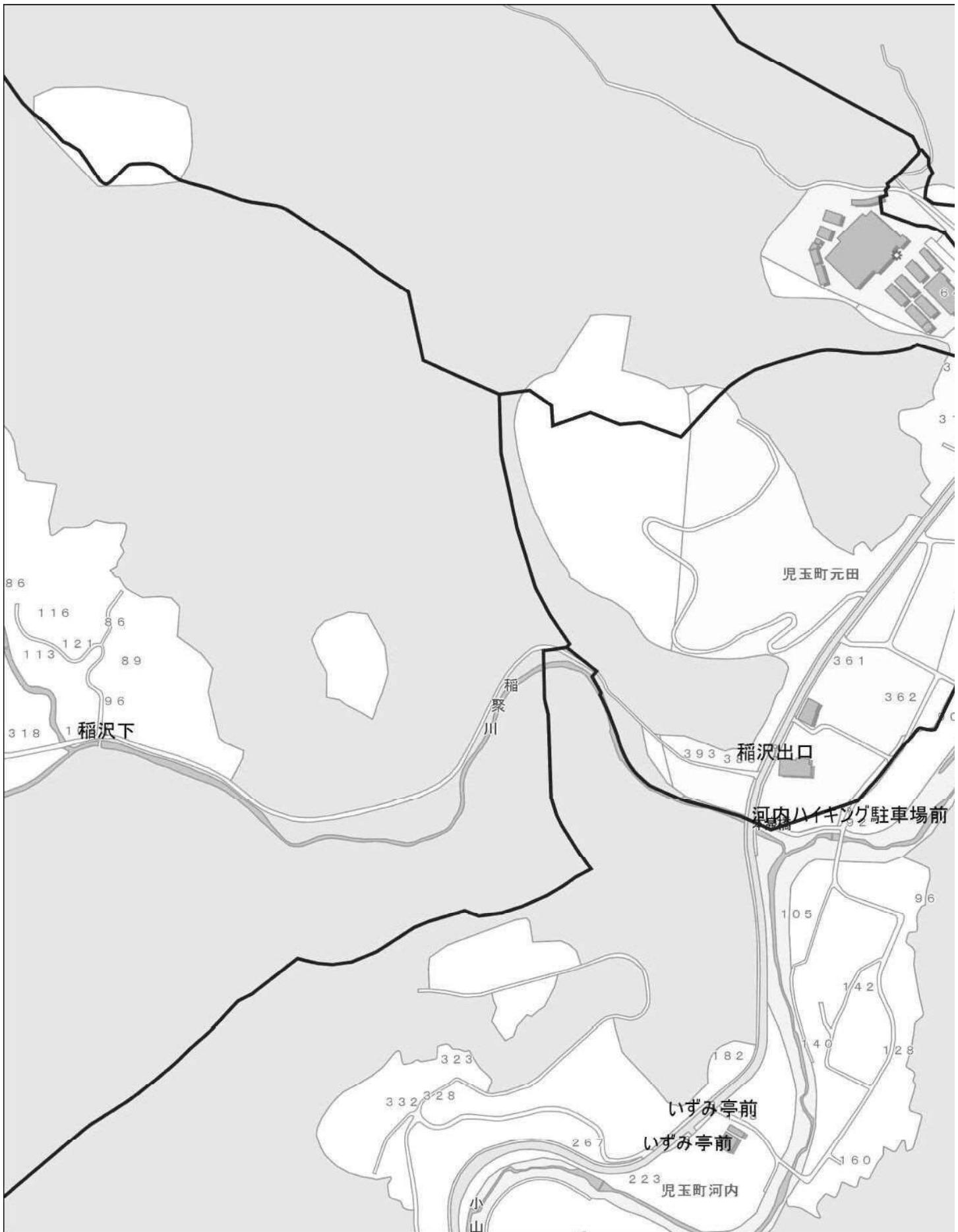
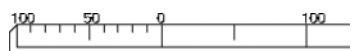


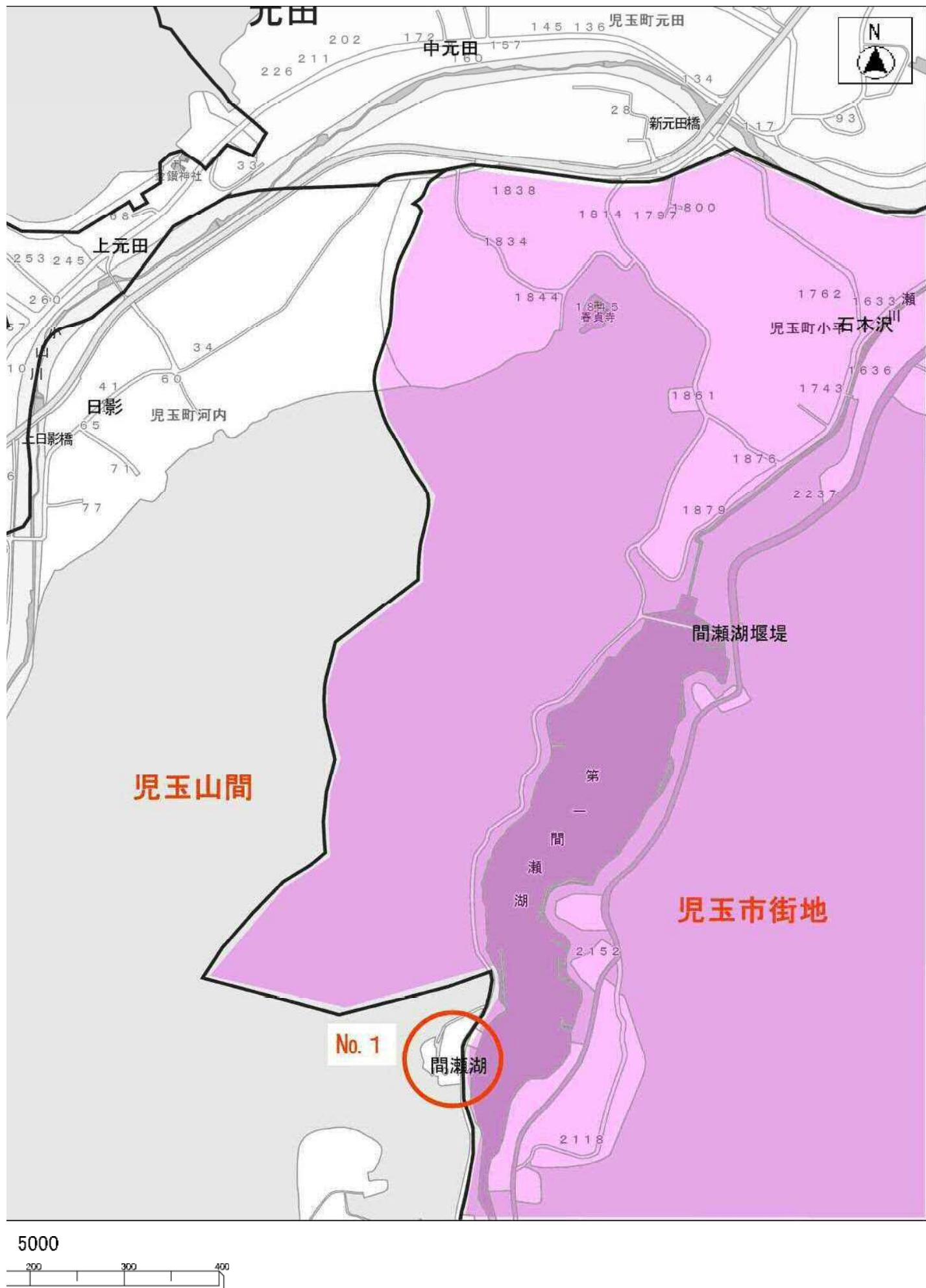
表1 添付図面

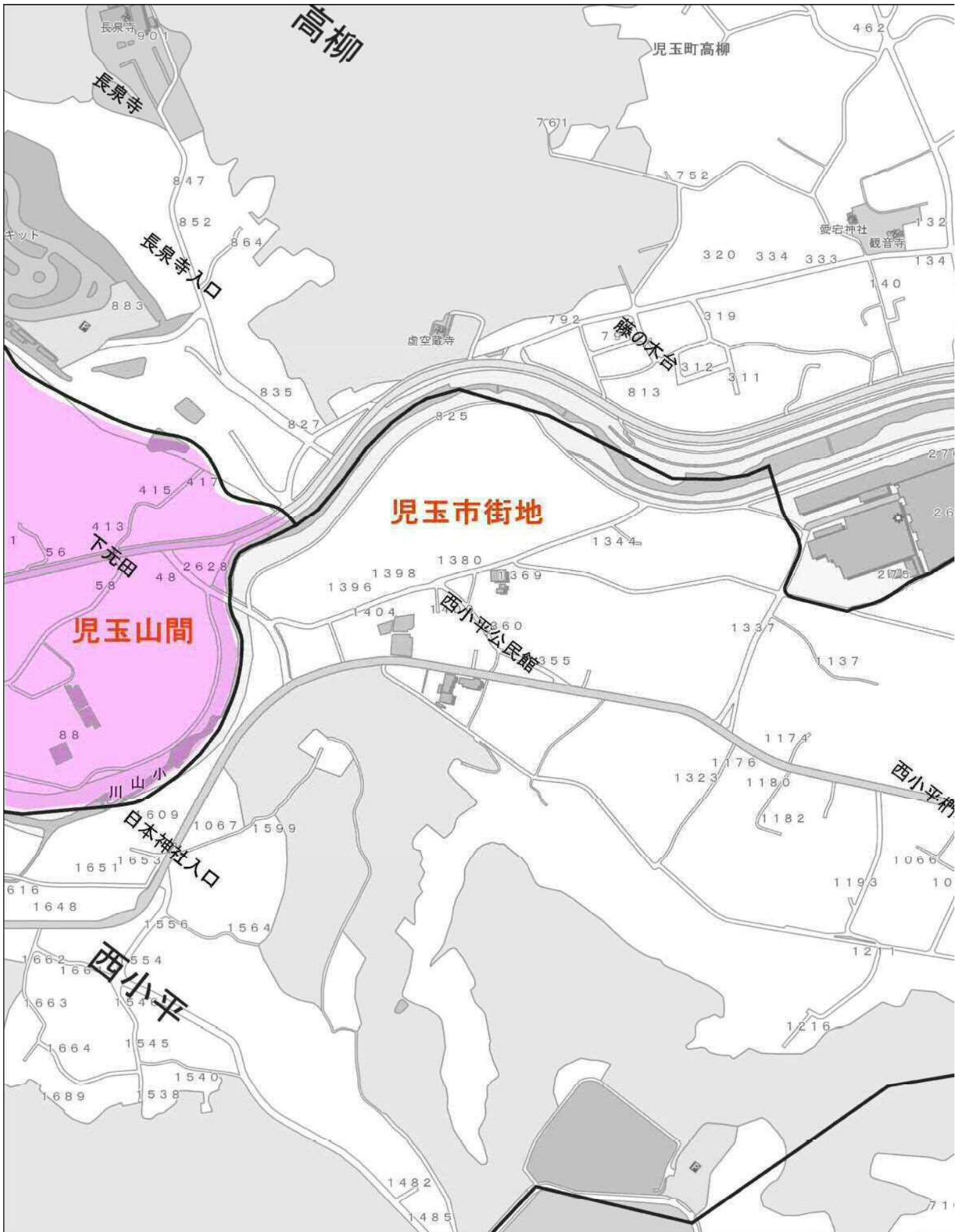




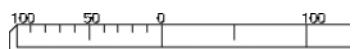
縮尺



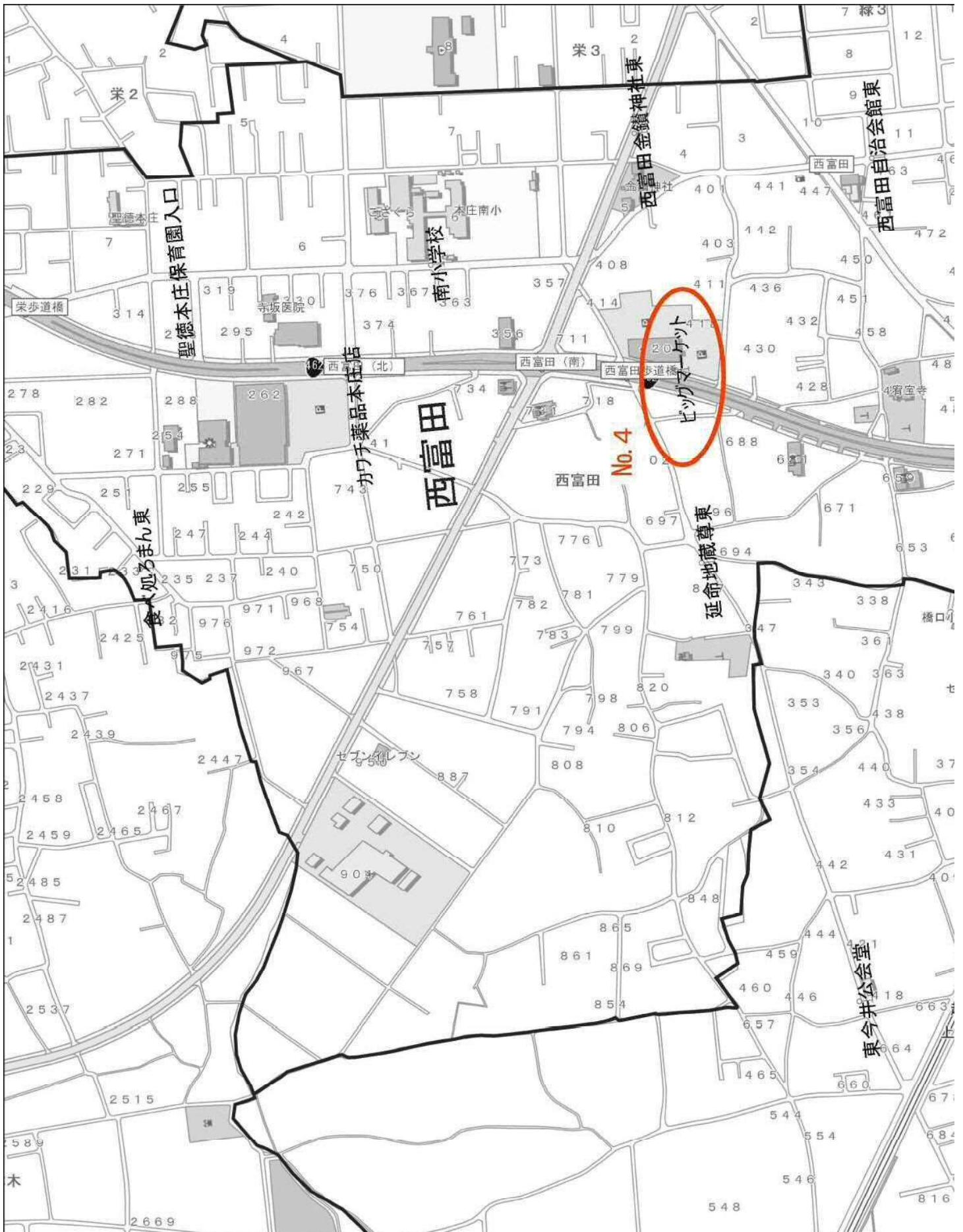




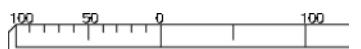
縮尺

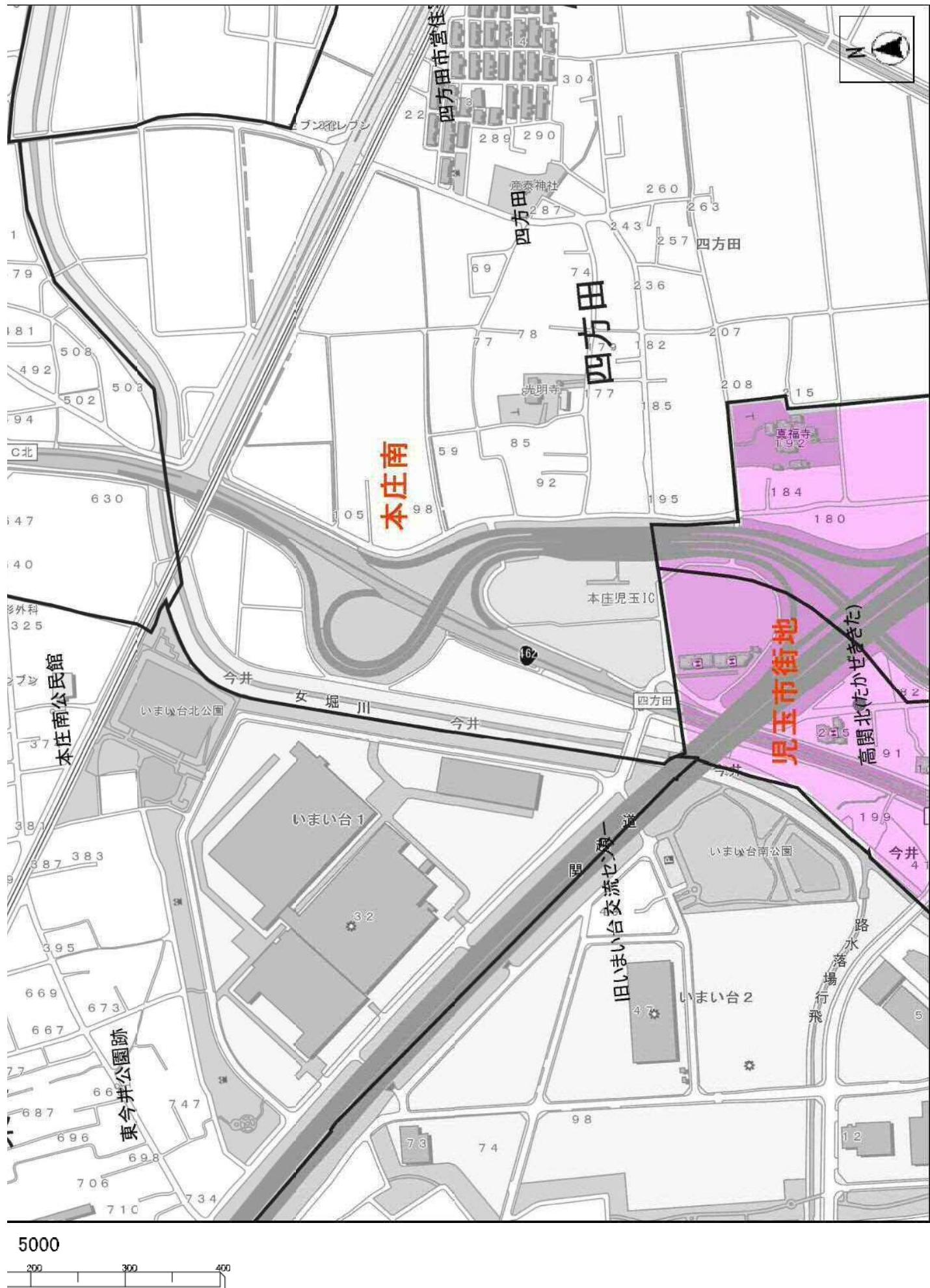






縮尺



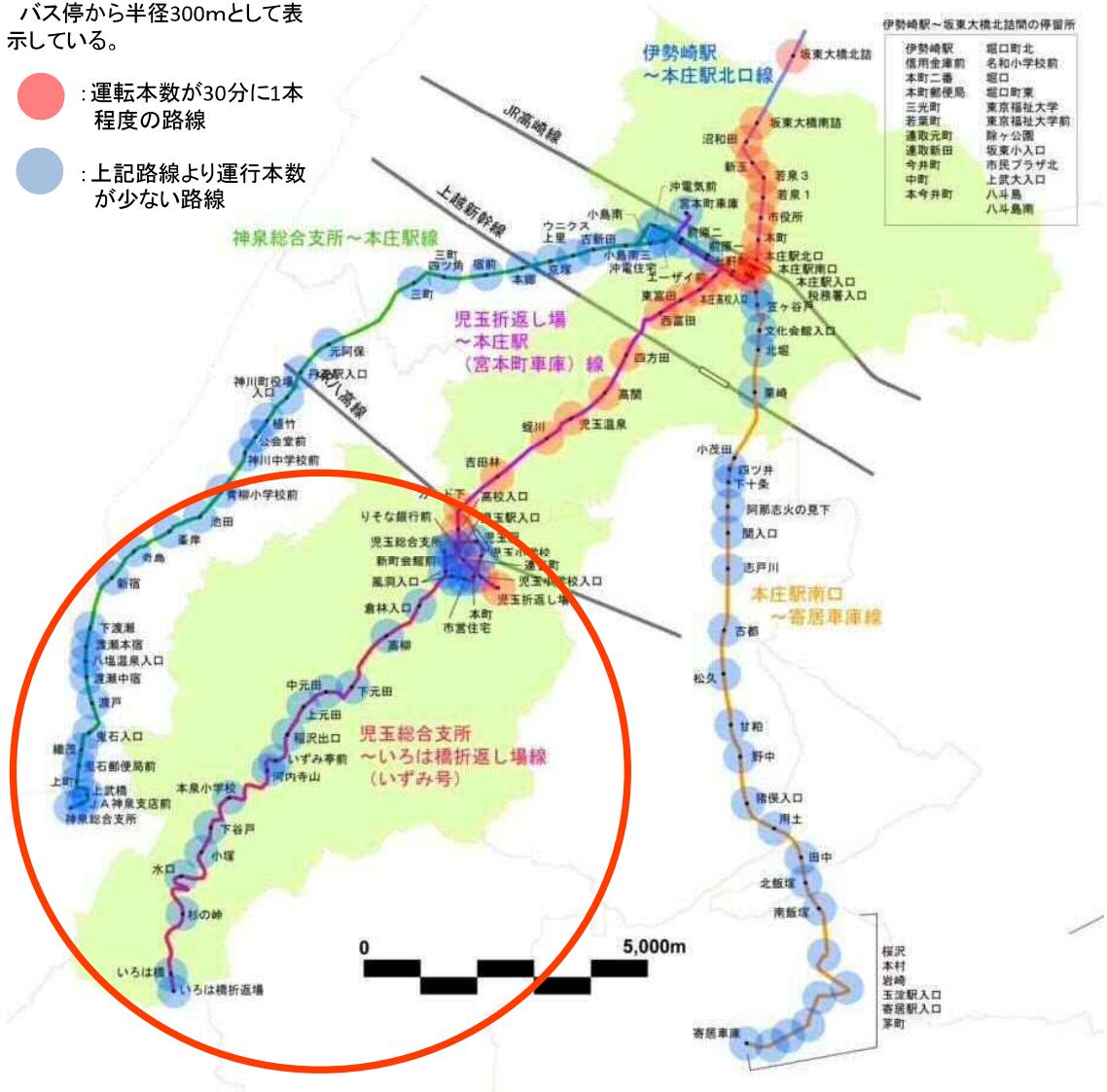


資料 2

いずみ号について

バスサービス圏域
バス停から半径300mとして表示している。

- : 運転本数が30分に1本程度の路線
- : 上記路線より運行本数が少ない路線



路線バス路線図（平成25年3月）

いずみ号年度別利用者数

年度		運行日数	利用者合計	1日当たり平均
18		298	14,349	48
19		297	13,344	45
20		297	12,569	42
21		297	11,010	37
22		296	10,604	36
23		299	4,510	15
24		273	3,985	15
25		150	1,967	13
合計		2,207	72,338	33

廃止以前の運行系統略図

児玉総合支所前(児玉駅経由)～イロハ橋折返場

